

ENGINEER

MPDP

ダイアリー

高崎 充弘



[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。



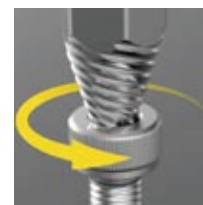
第62回 六角穴付きネジ救助隊 ～「ネジモグラ」誕生！～

前号ではハーグ協定出願についての当社の経験をお話ししましたが、今回は、前々号に引き続き、カンブリア大爆発で生まれたネジザウルスの新種のご紹介です。今回取り上げる「ネジモグラ」は血族的には「ネジ・バズーカ」の仲間にあたります。ネジザウルスは頭が1mmでも出ていればどんな形状のネジでも摺^{つか}んで回すことができますが、2015年10月に誕生した「ネジ・バズーカ」は頭が出ていない「皿ネジ」でも簡単に外すことができるという画期的な製品でした（本稿2015年11月～2016年2月）。ちなみに当社が初めてハーグ協定出願を行ったのがこの「ネジ・バズーカ」です。

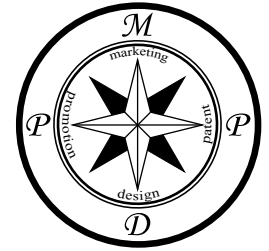
ネジ・バズーカは頭が出ていないプラス（十字）ネジを①軽症の場合にはたたかずに外す、②重症の場合にハンマーでたたいて外す、③頭がつぶれた六角穴付きネジに対してハンマーでたたいて外す——の3種類の特殊ビットをセットにして同時発売し、「ついに皿ネジが！なんと六角も！」というキャッチコピーでプロモーションしました。皿ネジも外したいという初代ネジザウルス発売直後からのお客さまの声がありましたので、「ついに」には、「お待たせしました！」という気持ちを込めています。一方の六角穴付きネジはそれほどメジャーな要望ではなかったため、「なんと」といういわば隠し玉のような表現にしていました。つまりMPDP2.0「多対一マーケティング」（2015年6月号）における「6：3：1法則」（メインカラーが6割、サブカラーが3割、アクセントカラーが1割という配色法則をマーケティングに取り込んだもの）のアクセントカラー的な位置付けです。

そして販売開始後、ネジ・バズーカ3種のビットのなかで、最もお客さまに喜ばれ、かつ、驚いていただいたのが前記①の皿ネジを「たたかずに外せる」ビットでした。皿ネジに対しては従来、ネジの頭にドリルで穴をあけたり、強い衝撃で溝をつけて回したりするなどの荒業、力業に頼るしかなかったのです。ところが、そのような作業ができない、つまりネジに衝撃をかけられない場所もかなりあるというのが、評価いただいた大きな理由でした。一方で③の六角穴付きネジを外すビットは、それまで市場になかった製品ということでお客さまの反応は悪くなかったのですが、「たたいて外す」ということに抵抗があったのか、①のビットほど注目は集めませんでした。

そんなある日、GINJIRO LABでさまざまな実験を行っている最中に、六角穴付きネジをたたかず外せるアイデアが生まれました。検証の結果、ビットの先端を逆ネジ形状にすることで衝撃を与えずに六角穴付きネジに食いつき、簡単に外せることが分かったのです。その後、寸法・材質・硬度などのパラメーターを種々変えて試作し、耐久テストを繰り返した結果、六角穴付きネジをたたかずに外せる



4番目のビットが完成しました。ネジ・バズーカと区別するために「ネジモグラ」と命名し、直ちに商標登録（Neji-mogura）を行いました。これによって、プラスネジと六角穴付きネジ、軽症用（たたかずに外す）と重症用（たたいて外す）のマトリックスが完成し、各症状に応じた最適のレスキューツールを提供できるようになりました。



ウ：社長はん、「ネジモグラ」っちゅう名前はどっから？

高：君たちは見たことないと思うけど、私が小学生のころにサンダーバードという番組があってね……。

銀：知ってまんがな！ イギリスのSF人形劇でっしゃろ？ プラモデルいっぱい買いましたで。（*^^*）

ウ：ボクも“5～4～3～2～1”とスーパーメカが5号から順番に登場するオープニングは、リメイク版で見たことありますわ。

高：それなら、サンダーバード2号に格納されている「ジェットモグラ」(またはモグラ)も知ってるかな？

銀：地中救出用の高性能ドリルマシンでっしゃろ。かなり人気で、いっぱい活躍シーンありましたで！

ウ：そういえば、「ネジモグラ」の先端って、サンダーバードの「ジェットモグラ」に似てまんがな！（*^^*）

高：しかも「ジェットモグラ」は国際救助隊、「ネジモグラ」は六角穴付きネジ救助隊。どちらもレスキューのプロ！

銀：かくして、ネーミングは「ネジモグラ」に決定！

ウ：商標登録は「ネジモグラ」やのうて、「Neji-mogura」にしはったんですな？

高：将来、海外へ商標出願する際に、マドリッド・プロトコル出願を行うことを想定して、特許庁への基礎出願をローマ字にしたんだよ。もちろん、ビットにはNeji-moguraとマーキングしている。

銀：ネジザウルスのときは、2004年にカタカナの「ネジザウルス」で商標登録したんちゃう？

ウ：数年後、「ネジザウルス」を海外でも出願しよかゆうときに、カタカナではマドプロ出願でけんっちゅうか、図形商標としてしか認識されへんことが分かって、Neji-saurusで再出願しましたな。^^；

高：今回はその教訓を生かして、最初から特許庁にローマ字で出願したんだ。グローバル知財ミックス戦略を推進してゆくうえで、まだまだ勉強しないとイケ

ないことがたくさんあるね。

銀：ところで、ネジのつぶれ方を軽症と重症に分けるちゅう考え方はこれまで世界中のどこにもありませんでしたな。

ウ：ネジザウルスは、つぶれたネジ頭の外周を掴んで回すわけやから、どんなつぶれ方しててもエエねん。

高：しかし、頭が出ていない皿ネジはネジザウルスでは掴めない。そこでネジ・バズーカの登場なんだが、ネジ頭のつぶれた所にビットを挿し込んで外すので、損傷程度によってレスキュー方法が変わってくるんだ。

銀：ネジのつぶれ具合に応じて最適のツールをお選びくださいっっちゅうのがエンジニアからの提案ですな！

ウ：人間の病気でも、軽症の場合は体に負担の少ない保存治療、重症の場合は手術というようにステージごとに治療方法を変えますわな。なんでもかんでも最初から手術しまへん。

高：ネジのトラブルでも、軽症の場合は衝撃を加えず、スマートに外せるInitial Bit、いよいよ重症の場合はたたいて外すFinal Bitの2段階構えだから安心だね。

銀：ネジ・バズーカが3種類しかなかったときは、何か足らん感じやったけど、たたかずに外せる「ネジモグラ」の誕生でマトリックスが完成、メッチャスッキリしましたわ！

ウ：「ネジモグラ」も人気出てきましたな。六角穴付きネジのトラブルも結構多かったちゅうことですよな。

高：六角穴付きネジはプラスネジに比べて、接触面積が大きいので一般的にはなめにくい。自分のスキルが原因だと思ってしまい、表に出なかったのかもしれない。まさに潜在ニーズだね。MPDPの最難関M：マーケティングをさらに深化させるチャンスだと感じている。

銀：最後はやっぱりMPDPのP：プロモーションでんな。世界初のInitial & Finalのレスキュー・マトリックスをしっかり伝えてゆきまひよ！